

1	審議会名	令和2年度第1回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日時	令和2年7月29日(水) 午前9時30分から12時00分まで
3	会場	安曇野市役所 本庁舎 4階 大会議室
4	出席者	磯野会長、細川副会長、中楨委員、瀧澤委員、浅見委員、山田委員 吉田委員、大澤委員、小澤委員、今泉委員、丸山委員、望月委員
5	担当課出席者	山田市民生活部長、地域づくり課 高橋課長、児玉課長補佐、 矢下主査、藤原主任、土屋地域おこし協力隊員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	令和2年8月20日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 報告事項
 - ① 安曇野市自治基本条例の改正について
 - ② 令和元年度先進地視察研修について
 - ③ 令和元年度協働事例集について
- (4) 協議事項
 - ① 第2次「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」進捗評価について
 - ② 令和2年度市民活動サポートセンターについて
- (5) その他
- (6) 閉会

2 会議事項概要

<報告事項>

- ① 安曇野市自治基本条例の改正について

事務局 資料に基づいて説明

委員 第3条(1)のウの「市内で事業活動を行い、又は公益の増進に取り組むもの」であるが、「もの」がひらがなになっているので、表現の誤りか確認をお願いします。

1頁の中ほどに「市民一人一人に、まちづくりに参加する権利が～」とあるが、単なる権利ではなく、義務のほうが強めた形になると思う。また第6条の「市政に参加する権利」も義務の方が相応しいと思うので、提案させていただく。
- ② 令和元年度先進地視察研修について

事務局 資料に基づいて説明

委員	どうやって活かしていくのかというところが見えない。特に人・物・金・情報について、どこまで市として投入していくのか。理想を実現していくためにどう進んでいくのか相談していきたい。
事務局	できるところから進めていき、検討していきたい。
事務局	③ 令和元年度協働事例集について
委員	資料に基づいて説明 市民の立場から言うと、市民の自発的な活動がどうまちづくりにつながっているのかを事例にあげた方がいいのではないかと。ここにあげているものを見ると、実行委員会形式が多い。行政が市民に呼びかけて、経常的に実施されている内容も多く市民側にとっては、これを見て私もやろうという気持ちになりにくいのではないかと。
事務局	地域の方が学校に入っていきコミュニティスクールの取り組みがあるが入っていない。事例はどういった視点でとりあげているのか。市民に向けてどういったメッセージを込めているのか。 協働する上での参考として、市民に受け取っていただければと思う。市の協働事業が全て掲載されているわけではないため、各課に働きかけていき充実した内容にしていきたい。また市民の自発的な活動については、市民サポートセンター通信等でも随時発信していきたい。
委員	毎年同じようなものが載っていることが多いと感じている。また、16頁の「市民活動団体の情報を冊子にまとめ、繋げよう！」については、登録団体の紹介は今までもあったもので、なぜ協働提案制度として行っているのか分からない。中身は深まっているが、せっかく作るのであれば連絡先をすべて載せるなどきちんと整えてほしい。
委員	市の内部の職員の研修として使うのであれば効果があると思うが、一般市民に実行委員会でこういったことをやったというのはあまり意味がない。作成するのであれば、財源がどのくらいかかったのか掲載した方が評価しやすい。市民は限られた予算の中で地域の人材等を利用して何ができるのかを悩ませている。市民同士の取り組み、団体間の中での取り組みを載せるほうが、市民にとって大切な内容となる。
委員	この時点で本当に市と地域住民が協働すべきものは何か考え、すべてA4にまとめるのではなく、もっと詳細に方向性を出したり、長期的、短期的な目標を載せるなど分かりやすくしてほしい。例えば市区長会であるが、部制度ができて、その後どのように変わってきて、どのように展開されているのか等、もっと内容が分かるものにしていただきたい。安曇野市の中で本当に大切なものを捉えて、市民に徹底させるには、そこに力をいれるべきである。
事務局	事例集という形もあり、内容が薄くなってしまっている。各課と連携して詳細な情報を提示できる方法を検討していきたいと思う。
委員	必要な内容を深く掲載するということが必要ではないか。相手側、市側という表現が気になるがいかがか。
事務局	協働事業事例集であるが、「第2次安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」の行動要領の一つとして、市が市民と協働する事業をまとめたも

委員	<p>のとなるのでご理解いただきたい。いただいたアイデアを工夫して取り入れていきたいと思うので、様々なご意見をいただければと思う。</p> <p>新型コロナの関係で会議もままならない、住民の意見を聞くということも難しい状況になっている。別の方法としてメールなどオンラインで意見を集める方法を検討した方がいいのではないか。北穂高でも意見の収集が進まない。今は書類で集めている。もっとやりやすい方法を市と考えていかなければならないが、どのような方法があるのかご意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>新しい手段を考えていかなければならないが、現状では対策がとれていない。今後どういった手段があるか検討していく。</p>
委員	<p>市民活動サポートセンター通信に、「SNS はじめました」とあるが、説明していただきたい。</p>
事務局	<p>新型コロナの影響でなかなかイベントが開催できていない状況の中、情報発信に力をつけていきたいという思いがあり、Facebook と Instagram をスタートした。ホームページではページ更新したことが伝わりづらいので、SNS を利用して、より多くの人にみていただきたいと思う。良い事例を SNS やサポートセンター通信で発信していきたい。</p>
委員	<p>かつてはくるりん広場では独自のホームページがあり、サポートセンターに直接メッセージを送ることができた。専用のホームページを作ったりする予定はあるか。</p>
事務局	<p>市ホームページに統合されており、直接サポートセンターにつなぐ機能はない。検討をしていく。</p>
委員	<p>パソコンでやりとりする人や電子機器使えない人もいる。色々なツールがあるので、市民がダイレクトに伝いやすい仕組みの構築を考えていただきたい。</p>
事務局	<p><協議事項> ① 第2次「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」進捗評価について</p>
事務局	<p>資料に基づいて説明（基本方針1）</p>
委員	<p>区と自治会と記載されているが、自治基本条例には区しか定義していないので、区だけではだめなのか。</p>
事務局	<p>自治基本条例の中では区という部分と区等と言い表している部分がある。等にあたる部分として、区のなかでさらに細分化された組織や、区とは別の地縁団体について掲げている。それらを含め自治会という表現にしている。</p>
委員	<p>基本施策1では、まちづくりや協働に対する関心・意識の向上がテーマになっているが、交流会やセミナーを開催したことでB評価になっているが、参加者数や参加者の反応はどうだったのか知りたい。やったということで評価はできるが、参加者の意識の向上ができたのか確認する必要がある。</p>
事務局	<p>区に関する相談件数について説明があったが、市民活動団体からの相談件数はどれくらいか。</p> <p>参加人数であるが、セミナーに関しては5回開催して104名に参加いただいた。その他に市民活動センターが開催した福祉施設事業所の交流会等を含め、合計238人の方に参加い</p>

事務局	<p>ただいている。特に福祉事業者との交流については、「また開催していただきたい」、「また参加したい」といった声があった。市民活動団体からの相談についてであるが、今年度は現時点で 20 件弱ほどである。登録団体からの相談や新たに活動を始めたい方からの相談があった。</p> <p>NPO セミナーの講座であるが、市民活動サポートセンターが本庁舎へ移転し、市内全 83 区に登録していただいたことにより、多くの区の関係者に参加していただき、それぞれ参考になったといった声をいただいている。参加人数についても「くるりん」で開催していた時は 4 回で 64 人であったのが、昨年度は 5 回で 104 人と増えている。相談件数に関しても、カウントすることが難しい部分もあるが、「くるりん」で受け付けていた件数が年間 27 件、昨年度は 167 件となっている。また、日常的にカウンターで来ていただいた方と情報交換もさせていただき、これらが移転したことのメリットと感じている。</p>
委員	<p>この評価は誰がつけているのか。評価が感覚的であり、評価の基準があいまいではないか。担当者が一人で決めているという事ではないかを確認したい。時点ではなくトレンドを見ないと評価にならないのではないか。計量的に測れるもので見ないと評価するのが難しい。2019 年から 2023 年にかけての計画となっているが、最終的なゴールがどれくらいで、今年は何のくらい達成しているのかを評価していく必要があるのではないか。例年増えているのか減っているのか見られるようにしてほしい。</p>
事務局	<p>評価は担当者がつけ、課内で確認している。</p> <p>「第 2 次安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」の 40 頁の第 2 次協働推進計画推進に係わる PDCA サイクルでは、事業実施担当、協働推進担当が自己評価したものを本委員会に報告し、評価していただくこととなっている。この資料はあくまで自己評価となるので、本委員会で評価していただき、担当に返していく。</p> <p>数字での評価基準や年度ごとの達成基準は用意できていない。個々の行動要領に対して、数値での基準を設けることが難しいものもあり、その辺についても、どういった基準が良いのかご意見をいただきたいと思う。</p>
委員	<p>この委員会で内容をチェックするといった話があったが、個々の内容を把握しているわけではないが、説明を受けて、例えば地域担当職員のところを見ると◎となっている。実際は年に 1、2 回の顔合わせのみ。区にしっかり入り込み、事業計画等の相談にのって事業が進むように、区だけでなく安曇野市としてどこが課題になるのかと言うぐらいは担当職員としてはそこまでやってほしい。またセミナーについても区からの参加者が増えたというのであれば、NPO セミナーではなく区の内容に則したテーマでの講座を開くべきである。講座にはレベルがあり、「知る」、「分かる」、「身につける」といったステップがある。「知る」のステップであれば人数がいるのは当たり前。そう考えると講座の評価もこんなに高いわけがない。ここでは感想だけというが、評価するとなると、評価会議を別にやらないと、とてもこの時間だけでは難しい。評価についても温度差があるので、担当者が自己評価し、委員会で修正していただくスタイルでは論議になっていない。委員会の中では共通の認識が醸成されていて基準があって評価する仕組みがないと難しい。</p>

委員	区に関係する項目が複数あるが、すべて A 評価というのは納得できない。マニュアルを作成したから A とかアンケートを行ったから A というのではない。区が中心となって NPO 法人等と連携していく意味で私たちが委員会に入っていると思うが、区だけでは取り組み内容があるので、区として様々な委員会に参加するようになったことは良いことだと思う。しかし、すべてが区と連携という考えであると、各区長もストレスが溜まってしまふ。したがって A 評価とするには再度精査していただきたい。根幹に区があると思うが、委員会と区がどのように連携していけばいいか考えていく必要がある。
事務局	どういった基準でどうやった方法で評価していただくのか検討していきたい。
委員	やはり評価のたびに同じような議論はあがったが、なかなか改善されていない。評価の基準は行政内部の事務作業の評価になりがちである。協働の評価はこれらを実践したこと、市民がどれだけ育ったかといった数値には置き換えにくいところが重点になっているという問題もあるが、全国には色々な事例がある。評価基準を適用している市町村もある。本委員会から小委員会をつくり、評価基準を来年に向けて作成することを事務局に提案したい。恒常的な客観的な評価基準を決めていく必要がある。
事務局	小委員会については、可能かどうかも含めて検討させていただきたい。本委員会の役割は評価すること自体が目的ではない。評価して改善に向けて動いていかなければならない。改善策の提案を出していただければと思う。また来年度以降の Plan(計画)にアドバイスをいただければと思う。
委員	やはり協働の意識づくりが問題となっているが、そこが全然進まない。イベントを開催しただけ一般の人の参加は難しい。評価するにあたっては、すべてを関わっているわけではないので、個別の内容が分からない。一方でこの資料を作成するだけでも事務局の労力がかなりかかっている。評価基準というのは難しいと思うが、評価基準の策定を前向きに考えていただきたい。
事務局	計画を作成するにあたり、評価するにあたっての指標を設けてはどうかという意見もあった。しかし、協働を測るものさしは難しいという議論の中で、計画書の中では5つの重点目標を掲げ、その成果を測る参考指標として、「計画期間内に協働という言葉を知りまたは理解している市民の割合の向上を目指す」ということが目標となっていることを交代された委員の方はご承知いただきたい。
事務局	資料に基づいて説明（基本方針 2、3） 質疑応答なし
事務局	② 令和 2 年度市民活動サポートセンターについて
委員	資料に基づいて説明 SNS であるが、観光協会のフォロワー数が 1 万人を超えたと市民タイムスに掲載されていた。継続的な情報発信をすると市民が活動を目にする機会が増え、アピールしていくことで関わる人間が増えていくと思うので、続けていくことを期待している。
委員	安曇野市内の団体とお会いする機会があり、「塩尻市はえんぱーくがあつていい。安曇野市は借りられるところがない。」と言っていた。調べると安曇野市も土日は会議室が借りら

<p>事務局 委員</p>	<p>れるとあったが、その辺のことが知られていない。サポートセンターのパンフレットがあって、登録されていない人にもアピールできると、サポートセンターのPRとなり、登録団体も増えていくと感じた。</p> <p>ホームページに情報を載せているが、より多くの人に周知できるよう考えていきたい。人材の活用について考えたほうが良いと思った。協働コーディネーター養成講座や地域リーダー養成講座を修了された方がいるが、そういった方々にどういった役割でどういった事をしてもらいか玉を投げないと、受講しただけとなり活躍する場がない。学んだことを活かし、まちづくりに参画してもらうためには、どういったことができるか話し合っ て決め、はっきりとお願いしたほうが良い。</p> <p>ホームページの充実についてであるが、活動団体の活動は紙には書ききれない。インターネットでは手間はかかるがお金は掛からない。各団体にブログのページをもってもら うことは難しいことではないが、市役所でやると自由度が低くなる。またホームページの コンテンツについてであるが、例えばあづみ野 FM で地域づくり課が関係している中柴さん の多士済々があると思うが、ホームページから放送を聴けるようにしたらいい。あづみ野 FM の人生二毛作では Youtube にあげている。それと同じようにどういうコンテンツを取り揃 えたら、みんなに見てもらえるか考えることが必要。中柴さんはブログに登場者を載せて いるが、その登場者に市民活動サポートセンターから別の観点で取材して掲載してもいい。 インターネットは世の中の8割9割の人が見ているので、十分利用できる手段になる。</p>
<p>委員</p>	<p>登録している団体等が協働のまちづくりに関わっているという意識がそこに有るのか無 いのか。こういった評価も関わった当事者の皆さんがどう感じているのか。評価を共同で 行う仕組みが必要なのではないかと思った。いろんな活動が新型コロナの影響で制限され ている中で、市民活動団体がどんな思いを持っているのか、どんなことをやっていき たいと考えているのか。前代未聞の状況の中で、協働のまちづくりに関わっている団 体が、これからどのような取り組みをしているのか新型コロナを共通のテーマに語り 合うことで、繋がりが生まれると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>福祉事業者と区の交流会がとても意義のある取り組みだと考えている。どう取り組んで 行くかによって、安曇野市の地域福祉、介護の底上げに寄与していくものだと思う。但し、 これを開催することを目的にしてしまうと、事務的となり時間が無駄になってしまうため、 その先のビジョンを福祉事業者や区の皆さんを交えて考えておくこともとても良い試 みになる。福祉事業所と区という限定的なものであるが、福祉や介護と区だけではなく 地縁団体等を含めた組織との協働の可能性を秘めている。福祉、介護は中心的な地域 課題となっているので、その一助になれるし、福祉事業所においても、地域の方の 協力をいただくと、ケアの質があがったり、対象者の活動が充実したりするので、自 分も協力したいし行政の方も一緒に取り組んでいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>具体的施策1の「まちづくりや協働に対する関心・意識の向上」というテーマで自分 の区をみても、全くできていない中で何をどうすればいいのか。これが、志しやスキル をもっている組織の活動の活性化を通して、市民の生活の向上を図っていくことで あれば協力をしたいが、区民一人ひとりとなるとそれはできないのが実態である。 区の中では、「余分に駆り出されて何かやるのは止めてほしい。花フェスやハーフマラソン といったイベント</p>

<p>委員</p>	<p>より自分たちの税金を身近な交通安全等に利用してほしい。」といった意見が多くある。災害が大きくなっていることを鑑みて、環境問題に区民を巻き込んでやるのであれば、区民は飛び込んでくれると思う。この委員会の趣旨が力量や士気のある集団を育成、広めていくことであれば大賛成であるが、区民全体を引っ張りこんで何かすることは不可能だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私も協働の意識づくりをすることは可能かどうかと原点に戻ってしまうことがある。ゆいわーく茅野の「パートナーシップのまちづくり」といった柔らかい表現であれば自然な形で入れるが、「あなたが主役だ。協働だ。」と言われても、なかなか入りづらいのではないかな。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、社会教育委員があったが、そこでは、国県市をあげて地域住民が今一番考えなければいけない問題である新型コロナウイルス感染症、それにおける感染者への差別、大雨が降る環境の問題といった社会現象に目が向いていなかった。もう少し現実の中で市をどうしていくのかを据えてほしいということになった。本会議でも同様に何に一番力をいれて取り組んでいかなければいけないか考えていく必要がある。そういった観点で考え、例えば令和2年度市民活動サポートセンターでは、色々ある中で福祉事業所と区の交流に力をいれ高齢化社会に向けて取り組んでいく、といったように力を注いでやってほしい。情報提供等はどんどんやってもらえれば、みんなそれを受け止めて利用したいものは利用していくと思う。</p> <p>この会議の課題と評価でも、やったことは書いてあるが、評価の観点がないから、市民に対してどうなったのか、協働に対してどうなったのか出てこない。そこが出ないとこれからどうすればいいのかも発信できない。市から発信できなければ、地域住民も分かるはずもない。非常事態の情勢を捉えて、その中でどうしていくのかを決めてほしい。</p> <p>明科でいいまちサロンを4か月ぶりに再会した。コロナでやめようかという話をしていたが、市のガイドラインを守って開催しようということになった。開催してよかった。映画「男はつらいよ」の1作目を上映したが、作品では自分のいいたいことをぶつけるから喧嘩をするが、それを乗り越えて暖かいつながりが生まれていた。コロナ感染者者に対しての誹謗中傷もあり、感染者が地域に居られない状況がある中で、つながりの大切さを伝えてくれる内容であった。小さな取り組みの中で何を発信していくか。それを共有することが基盤となって協働の意識づくりにつながっていく。それが集まっていくことで協働になっていくのではないかな。</p> <p><その他> 特になし</p>